

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		朝日大学		設置者名		学校法人朝日大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
法学部	法学科	150人	中一種免(社会)	平成元年度	93人	8人	2人	1人	
			高一種免(地理歴史)	平成元年度			7人		
			高一種免(公民)	平成元年度			8人		
経営学部	経営学科	200人	高一種免(商業)	平成元年度	68人	1人	1人	0人	
	情報管理学科	125人	高一種免(商業)	平成元年度	43人	1人	1人	0人	
			高一種免(情報)	平成13年度			1人		
	ビジネス企画学科	150人	高一種免(商業)	平成14年度	43人	0人	0人	0人	
入学定員合計		625人	合計		247人	10人	20人	1人	
大学名		朝日大学(大学院)		設置者名		学校法人朝日大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
法学研究科	法学専攻	20人	中専免(社会)	平成4年度	4人	0人	0人	0人	
			高専免(公民)	平成6年度			0人		
経営学研究科	情報管理学専攻	10人	高専免(商業)	平成7年度	9人	0人	0人	0人	
			高専免(情報)	平成17年度			0人		
入学定員合計		30人	合計		13人	人	人	人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年11月11日（木）

実地視察大学：朝日大学

実地視察委員：平出彦仁委員、山極隆委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・2学部4学科において教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。
- ・教員となる学生を育てることに引き続きご尽力いただきたい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・国際未来社会を切り開く社会性と創造性、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成するという建学の精神を踏まえ、次の教員養成に対する理念・目標のもとに、教育・研究に努めている。
 - ア. 社会性、創造性、人間性に富む人間教育のできる人材の育成
 - イ. 実践的事例や体験的学習を通して全人教育のできる教員の養成
 - ウ. 多彩な指導法を修得し、学習指導の定着・総合化を目指す教職教育

<講評>

- ・教員養成に対する理念・思想が明確に示されている。
- ・理念に基づき到達目標を作り、その到達度・結果についても調べてほしい。また、到達していない場合には、原因や修正方法を今後追求してほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・シラバスについて、全体的に内容が簡潔すぎるため、内容を充実させてほしい。授業計画については、より詳しく記載し、また、各回で違う内容となるよう各回ごとにテーマを明記すること。
- ・到達目標を明記し、何を学びどのような力を身につけるのか学生に明確に伝わるようにすること。
- ・各科目に含めることが必要な事項を含んでいるか、また、学校現場の現状を踏まえた講義内容となっているか、教員は絶え間なく勉強し、必要に応じシラバスやレジュメ改善を行っていく必要がある。「教職入門」については、進路選択に資する各種の機会の提供等を含むよう、シラバスを修正すること。
- ・兼任教員が担当する講義のシラバスについても、大学で内容をチェックする体制を

整えてほしい。

- ・各教科の指導法については、テキストとして学習指導要領を明記してほしい。
- ・「〇〇の研究」という科目名称は望ましくないため、改めてほしい。
- ・評価方法について、出席のみを持って積極的に一定の評価をすることは望ましくないため、改めてほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・基本的に母校において実習を行っている。母校の受け入れが難しい場合、地元の協力校に受け入れを依頼している。（協力校は3校確保している）
- ・基本的に4年次の5～6月に実習を行っている。
- ・全実習校に訪問し、実習校と連携をしつつ実地指導を行っている。
- ・実習校からの評価票、教育実習記録及び実習報告等に基づき、総合的に学生に対する評価を行っている。

<講評>

- ・全ての実習校に訪問指導を行い、実習校との連携を図っている点については評価できる。
- ・今後も、実習校に丸投げをするのではなく、実習校及び教育委員会と常に連携を取りながら、実習を実施してほしい。
- ・今後も、実習の評価方法について検討を続けていってほしい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・大学としては、学校現場体験・学校ボランティア活動について取り組んでいない。有志の学生が各自でボランティアを行っている。

<講評>

- ・学校現場体験・学校ボランティア活動に関する大学としての取り組みを検討してほしい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・教職課程センター、学部の指導教員、事務局が連携し、学生の情報について迅速に情報共有を行い、履修指導を行っている。
- ・将来部活動の指導者になることを目標の一つとして教職課程を履修している学生が多いため、クラブの指導関係者も教務事項を理解し、指導・サポートを行っている。

<講評>

- ・学生に教職の魅力を伝え、教職課程履修者及び教員就職者を増やす努力をしてほしい。
- ・現職経験者による実践的な指導がなされている点について、評価できる。
- ・出口管理をしっかりすることを期待したい。教職実践演習において、履修カルテを活用し、最低限必要な資質能力が身についているか検証し、身につけていない場合にはしっかりと補充を行っていくことを期待したい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・全学的組織として、「教職課程センター運営委員会」（教職課程センター専任教員4名と、各学部から選出された各2名の専任教員で構成される）が設けられている。月1回の定例会において、教職課程に関する事項全般について審議している。

<講評>

- ・全学的組織については充実している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・図書について、全体的に非常に充実している。今後も財産を活かし、教育に活用してほしい。
- ・特に教科書については、様々な種類のものが複数冊数ずつ揃えられており、質・量ともに非常に評価できる。